

試験研究(中間)評価整理表

部 会 名 農業部会  
主 務 課 農業振興課

No.	施策目標	研究課題名	試験研究機関名	試験研究機関		予算額 全体予算 (千円)	具体的評価項目				1次評価	部局コメント	最終評価	外部評価委員からの意見等
				始期	終期		評価時 での進捗 状況	内外の状 況変化	成果の見 通し	—				
1	農林水産業の生産力を強化するための、先端技術を活用した技術開発等の推進(重点試験研究テーマ2、3、7)	先端技術を活用した新たな農業生産技術の開発	農業総合センター	R3	R7	76,431	B	A	B	—	B	本研究課題は、施策や地域が掲げる課題の解決に資するものであり、担い手不足が進行する中、現場ニーズは高まっている。概ね、計画どおりに進んでおり、成果も期待できるので、来年度以降も継続されるべきである。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>スマート農業技術に関して、大学や農研機構は大規模農家を対象とした機器開発等を実施してきているが、県においては中山間向けの対応などを実施していただきたい。</li> <li>ICT放牧課題について、風評払拭及び飼料高騰対策となりうることに加え、省力化できる放牧の魅力と安心できる飼養環境で育つ福島県産牛をPRする上でメリットがあると考ええる。</li> <li>効率の良い飼養管理技術開発を望む。</li> </ul>
2	県産農林水産物の競争力を強化するための、「ふくしま」ならではの価値向上に資する品種開発等の推進(重点試験研究テーマ4、5)	市場ニーズに対応したオリジナル品種・系統と生産技術等の開発	農業総合センター	R3	R7	397,630	B	B	B	—	B	実施初年度で普及成果を4つ輩出するなど今のところ遅れ等は見られない。新しい条例の施行等、状況変化にも柔軟に対応している。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゆうやけベリーの開発など着実に成果が出ていると評価する。最先端技術等を有効活用し消費者ニーズに対応した品種や温暖化等に対応した品種開発を実施してほしい。</li> <li>現在の福島県のゲノム情報を活用した和牛改良は、未だ現場での期待に応えられていると言えない。今後、県独自の特色を持った、全国に先駆けた研究が必要である。</li> </ul>
3	農林水産業の生産力を強化するための、先端技術を活用した技術開発等の推進(重点試験研究テーマ4、5、7)	農産物を「ふくしま」ならではの産品にする技術の開発	農業総合センター	R3	R7	354,306	B	A	B	—	B	各試験とも順調に進捗しており、試験の継続により更なる成果も見込めることから、今後も継続して試験を実施すべきである。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>エゴマやオタネニンジンなどの地域特産作物に関し、生産拡大につながる研究の推進を評価する。更なる生産拡大により地域ブランド化へ貢献して欲しい。</li> <li>福島牛のおいしさの早急な解明と、行政と生産者団体が一体化したこれまで以上の推進体制構築の実現を期待する。また、研究課題と消費者の求めるものが乖離していないか都度検証が必要と考える。</li> </ul>
4	地球温暖化等の気候変動に対応し、環境と共生する農林水産業を進めるための技術開発等の推進(重点試験研究テーマ6)	気候変動に対応し農業生産の安定化に寄与する技術の開発	農業総合センター	R3	R7	36,190	B	B	B	—	B	「みどりの食料システム戦略」が国において決定されるなど、当該課題は重要である。水稲晩生品種の作付地の北上、気象災害の多発など、気象は確実に変動しており、来年度以降も継続されるべきである。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>温暖化に対する安定生産技術開発を積極的な推進を評価する。温暖化に対応した品種開発と両輪での実施に期待する。</li> </ul>
5	地球温暖化等の気候変動に対応し、環境と共生する農林水産業を進めるための技術開発等の推進	環境負荷を低減する農業生産に資する研究開発	農業総合センター	R3	R7	87,605	B	B	B	—	B	各課題の試験は概ね計画どおり進んでおり、来年度も継続されるべきである。4年度完了課題は、概ね目的を達成したので終了すべきである。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境負荷低減に関する技術開発の着実な実施を評価する。「みどりの食料システム戦略」と併せ、SDGsや環境を重視する農業の研究を遂行してほしい。</li> <li>畜産業界の堆肥処理問題の解決の一助となり得る研究である。今後は機械代・コスト等の研究にも期待する。</li> </ul>
6	安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上のための試験研究の推進(重点試験研究テーマ6、7)	産地や経営体において収益性を高める技術の研究開発	農業総合センター	R3	R7	98,823	B	B	B	—	B	今現在の産地・経営体が抱える課題に的確に応えるものとして、来年度も継続されるべきである。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>儲かる農業の実施のために必要な技術開発について、幅広い対応を評価する。引き続き現場ニーズに基づく研究を遂行してほしい。</li> <li>肉用牛の短期肥育技術試験は未だ結果が判明していないため、継続実施を希望する。</li> <li>乳牛の試験では、大規模農場、他の現存する中核的な酪農場に活用できる技術を試験研究することを望む。</li> <li>豚の試験では、生産現場を鑑み、一貫性のみられない試験の継続を検討すべき。</li> </ul>
7	安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上のための試験研究の推進(重点試験研究テーマ7)	農産物の安定供給に寄与する鳥獣被害防止・病害虫防除等に係る研究開発	農業総合センター	R3	R7	151,380	B	A	B	—	B	計画どおり試験研究が進捗しており、研究成果についても着実に報告されている。研究ニーズの高い課題であるため、来年度以降も継続されるべきである。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>最新技術を活用した対策の実施及び温暖化や外来の虫等による病虫害への迅速な対応を評価する。現場ニーズの高い研究でもあり引き続き取組を期待する。</li> <li>今後は特定の作物・鳥獣に対する研究にも期待している。</li> </ul>

## 試験研究(中間)評価整理表

部 会 名 林業部会  
主 務 課 森林計画課

No.	施策目標	研究課題名	試験研究機関名	試験研究機関		予算額 全体予算 (千円)	具体的評価項目				1次評価	部局コメント	最終評価	外部評価委員からの意見等
				始期	終期		評価時までの進捗状況	内外の状況変化	成果の見通し	—				
1	県産農林水産物の競争力を強化するための、「ふくしま」ならではの価値向上に資する品種開発等の推進	ふくしまほんしめじ栽培技術の開発と優良品種選抜	林業研究センター	R3	R7	4,010	B	A	B	—	A	計画のとおり試験研究が進捗し、栽培技術の改良や新品種の開発が期待されている。また、生産規模拡大の要望があり、消費拡大に向けた魅力発信が必要となることから、拡充して試験研究を行うべきである。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人工栽培品が流通する中、マツタケのように旬に楽しむものとしてのブランド価値を高める工夫も同時に必要である。</li> <li>・十分な商品価値を得られるよう、生産量、質、発生時期の安定と、生産コストを低減できる生産技術の開発・確立を望む。</li> </ul>

試験研究(事後)評価整理表

部 会 名 林業部会  
主 務 課 森林計画課

No.	施策目標	研究課題名	試験研究機関名	試験研究機関		予算額 全体予算 (千円)	具体的評価項目				1次評価	部局コメント	最終評価	外部評価委員からの意見等
				始期	終期		当初の研究計画との相違	研究目的の達成度	研究成果の活用	—				
1	安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上	スギ大径材の強度特性等の把握と有効な活用方法の検討	林業研究センター	H30	R4	8,279	B	B	B		B	スギ大径材の市場動向を確認するとともにスギ大径並材の強度特性と材質特性を把握し、情報提供することができた。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用材利用が減少しているスギ材の性能について十分なデータ収集が行われ、利用拡大につながる成果が得られた。</li> <li>・スギ大径材の活用は今後の皆伐再生造林の促進に向けて重要な課題であり、今課題での強度、材質特性を踏まえた利活用方法の検討(平角、ディメンション材等)の継続取組を期待する。</li> </ul>
2	県産農林水産物の競争力を強化するための「ふくしま」ならではの価値向上に資する品種開発等	山菜類の選抜と栽培方法	林業研究センター	H30	R4	11,638	A	B	B		B	特徴のある山菜を選定・選抜するとともに、新たな栽培手法等による生産が可能となった。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アケビスプラウトは福島県独自のものとして今後発展する可能性があり、ほかの野生植物についても山菜としての利用の展開が期待できる。</li> </ul>

## 試験研究(中間)評価整理表

部 会 名 水産部会  
主 務 課 水産課

No.	施策目標	研究課題名	試験研究機関名	試験研究機関		予算額 全体予算 (千円)	具体的評価項目				一次評価	部局コメント	最終評価	外部評価委員からの意見等
				始期	終期		評価時までの進捗状況	内外の状況変化	成果の見通し	—				
1	安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上のための試験研究の推進	シラス漁況予測技術の開発	水産海洋研究センター	R3	R7	528	B	B	B		B	調査、解析ともに計画どおりに進捗しており、漁況予測に必要な知見が集まりつつあり、計画どおりの成果が期待できる。今後、調査の重点化を図りつつ、継続して研究を行っていく必要がある。	B	・自己評価は妥当である。
2	安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上のための試験研究の推進	栽培漁業対象種の放流技術に関する研究	水産資源研究所	R3	R7	2,877	B	B	B		B	本研究は種苗生産の大きな課題である疾病対策とコスト削減対策に寄与するものであり、具体的な取組成果が現れ始めており、今後も継続して実施すべきである	B	・自己評価は妥当である。 ・最終年度のまとめでは、コストの内訳も示されてはどうか。さらに、電気代、餌代、人件費など諸経費の単価が上昇によるコスト増と、新施設自体によるコスト減を区別して説明されてはどうか。
3	安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上のための試験研究の推進	松川浦の増養殖の安定化に関する研究	水産資源研究所	R3	R7	508	B	B	B		B	ヒトエグサとアサリは松川浦の特産品であり、需要も多い。今後も継続して資源を利用し、安定生産を図るためにも、引き続き調査が必要である。	B	・自己評価は妥当である。 ・貴重なデータが蓄積されていると思われる。
4	県産農林水産物の競争力を強化するための、「ふくしま」ならではの価値向上に資する品種開発等の推進	高品質魚作出保存技術の開発	内水面水産試験場	R3	R7	8,700	B	B	B		B	高品質魚を作出するための親魚確保の取組が進められている。今後は現在飼育中の親魚候補からさらに選抜を進め、それらを用いて高品質魚を作出していくため、継続して研究を進める必要がある。	B	・自己評価は妥当である。
5	安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上のための試験研究の推進	内水面重要水産資源の増殖手法の開発	内水面水産試験場	R3	R7	471	B	B	B		B	いずれの魚種も内水面の重要魚種であり、資源減少が懸念される魚種もあることから、研究で得られたデータを基に漁協と連携して資源の維持、増大を図る必要があり、継続した研究が必要である。	B	・自己評価は妥当である。